

ヒト皮膚常在菌発酵エキス

開発の経緯

ヒト皮膚常在菌発酵液はヒトの皮膚に存在する常在菌を発酵した発酵液です。ヒトの皮膚には1000以上の種類の菌が存在しています。皮膚に炎症(赤みや腫れ)をもたらす悪玉菌も多数存在しています。悪玉菌の例としてはアクネ菌、黄色ブドウ球菌、アスペルギルスなどの真菌類などです。一方、善玉菌として表皮ブドウ球菌、学名 *Staphylococcus epidermidis* が存在しており、皮膚の状態を維持しています。ここでは、皮膚常在菌として命名しました。今までは、皮膚常在菌を発酵することは技術的な理由により困難でした。しかし、アサイヤシ果実発酵エキスを培地にすることにより、皮膚常在菌の発酵に成功しました。

化粧品用途 有効濃度5%

表示名称 スタフィロコッカスエピデルミジス培養液、(乳酸桿菌／サッカロミセス)／アサイヤシ果実エキス発酵液 (配合比率 95:5)

INCI *Staphylococcus Epidermidis Ferment Filtrate*、
Lactobacillus/Saccharomyces/Euterpe Oleracea Fruit Extract Ferment Filtrate

原材料： ヒト皮膚常在菌、アサイヤシ発酵エキス含有無血清培養液

(血清、防腐剤、抗生物質及びビタミン、化学物質を含まない)

保管方法： 冷暗所に保管する。

(開封後は密閉して冷蔵保存し、できるだけ早く使用ください。)

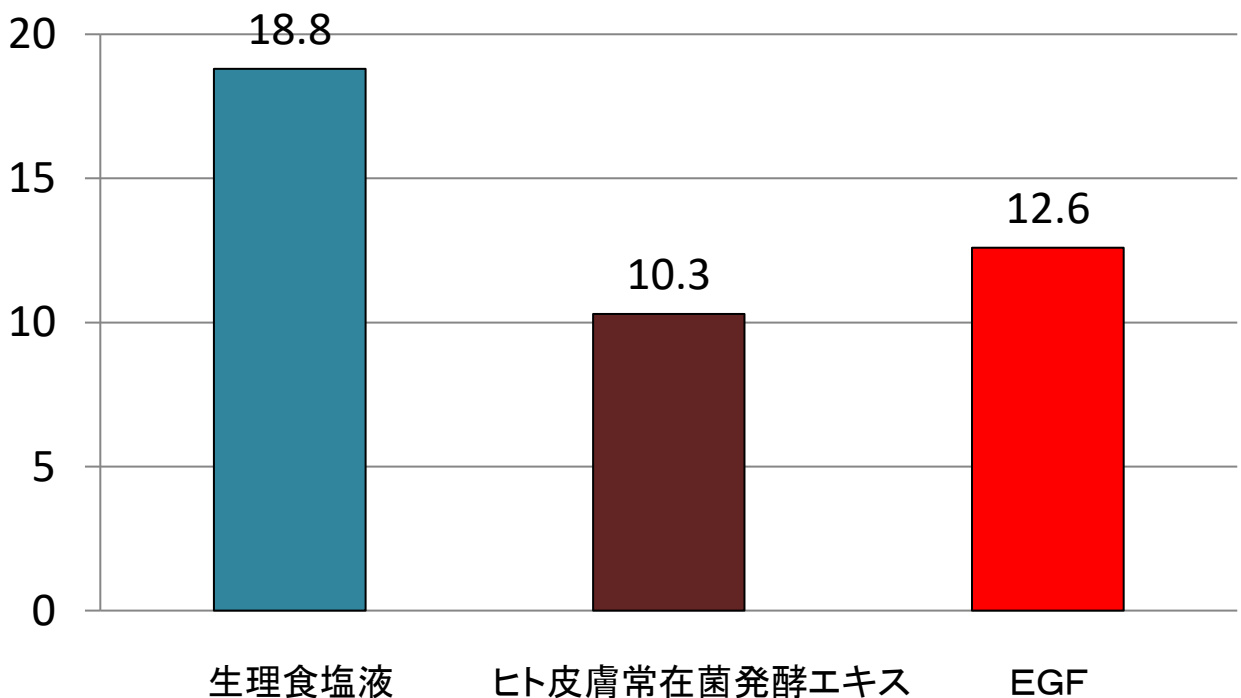
未開封時賞味期限： 2年間。

日本製造

ヒト皮膚常在菌発酵液

ヒト皮膚免疫細胞／抗アレルギー作用

アレルギーサイトカイン量 (IL-6量) ($\mu\text{g}/1000$ 細胞)

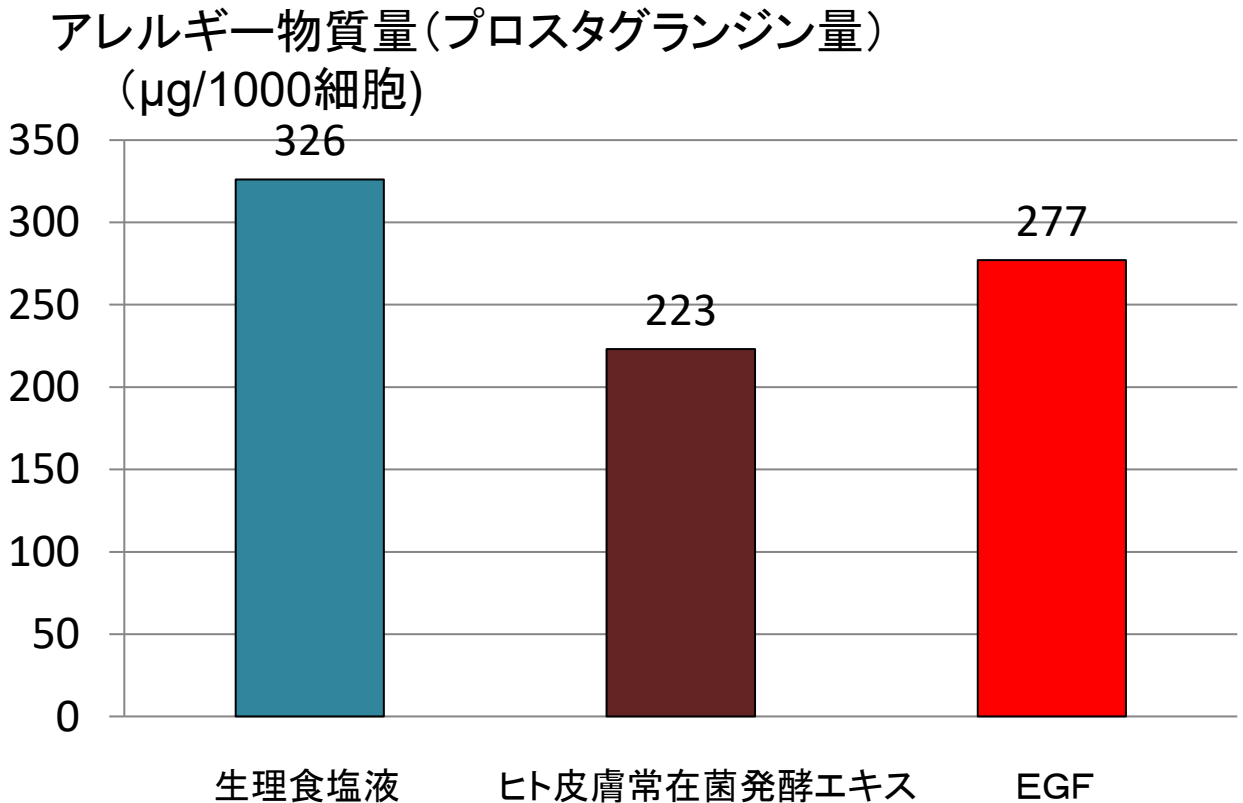


ヒト白血球を培養し、ここに炎症刺激(LPS)を与えました。それにより発生したアレルギーサイトカイン量をELISA法により定量しました。また、対照としたEGFよりも優れた作用を示しました。

以上の結果、皮膚常在菌発酵液はアレルギーを抑制することが判明しました。

ヒト皮膚常在菌発酵液

ヒト皮膚免疫細胞／抗アレルギー物質作用



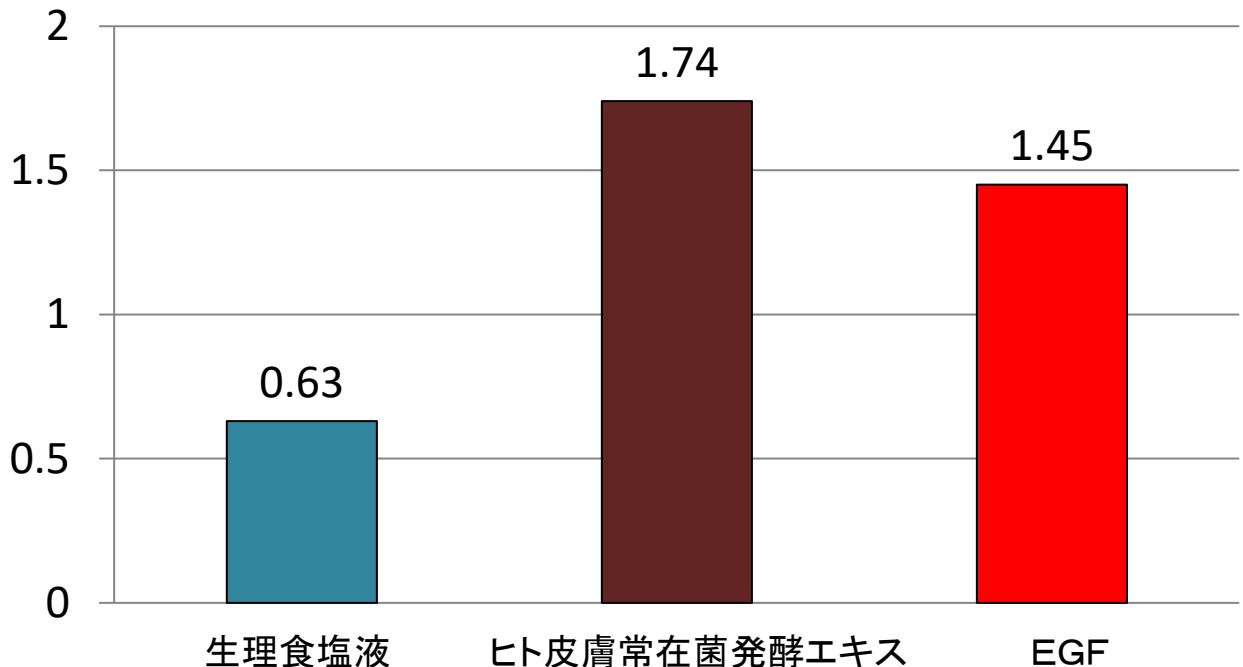
ヒト白血球を培養し、ここにアレルギー刺激(炎症性刺激)を与えました。それにより発生したアレルギー物質量をELISA法により定量しました。また、対照としたEGFよりも優れた作用を示しました。

以上の結果、皮膚常在菌発酵液はアレルギーを抑制することが判明しました。

ヒト皮膚常在菌発酵液

ヒト皮膚免疫細胞／免疫活性化作用

皮膚免疫細胞(貪食作用)(units/1000細胞)

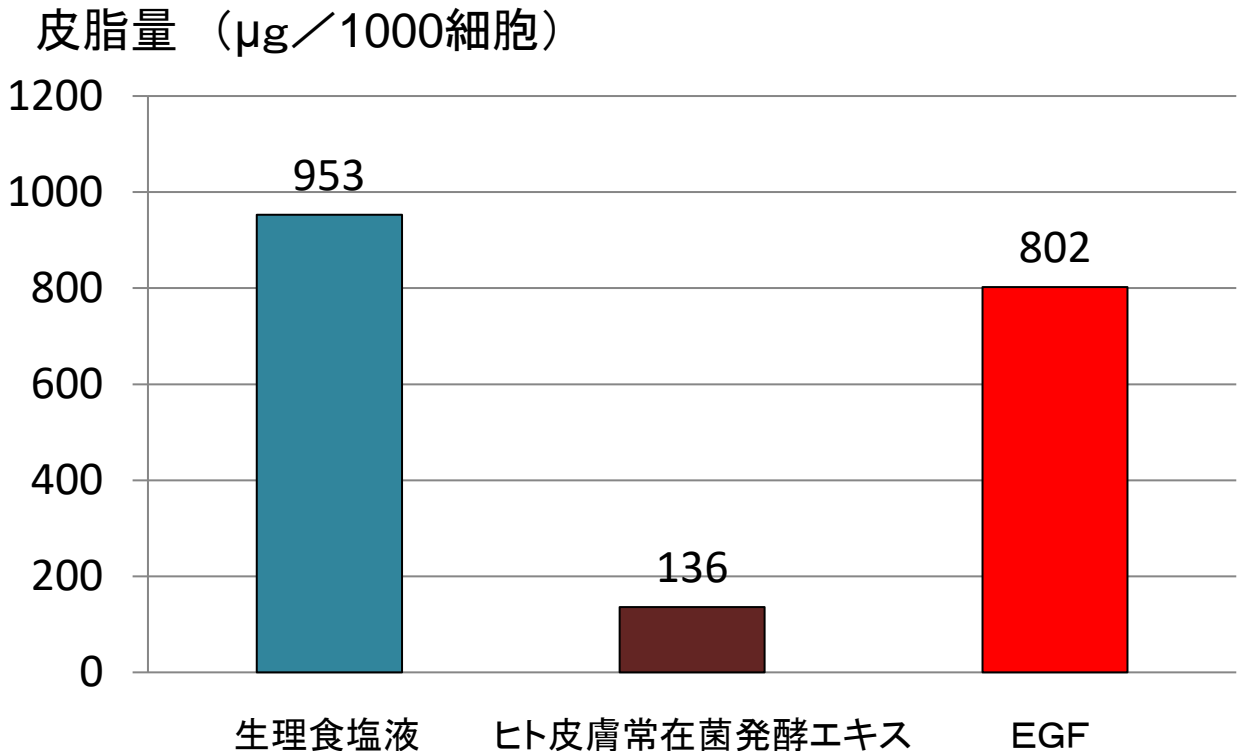


ヒト皮膚免疫細胞を培養し、紫外線を照射しました。ここに皮膚常在菌発酵液を添加しました。さらに、培養して細胞の免疫機能として貪食作用を調べました。その結果、皮膚常在菌発酵液は貪食作用を活性化しました。また、対照としたEGFよりも優れた作用を示しました。

以上の結果、皮膚常在菌発酵液は皮膚の免疫作用を増加させることが判明しました。

ヒト皮膚常在菌発酵液

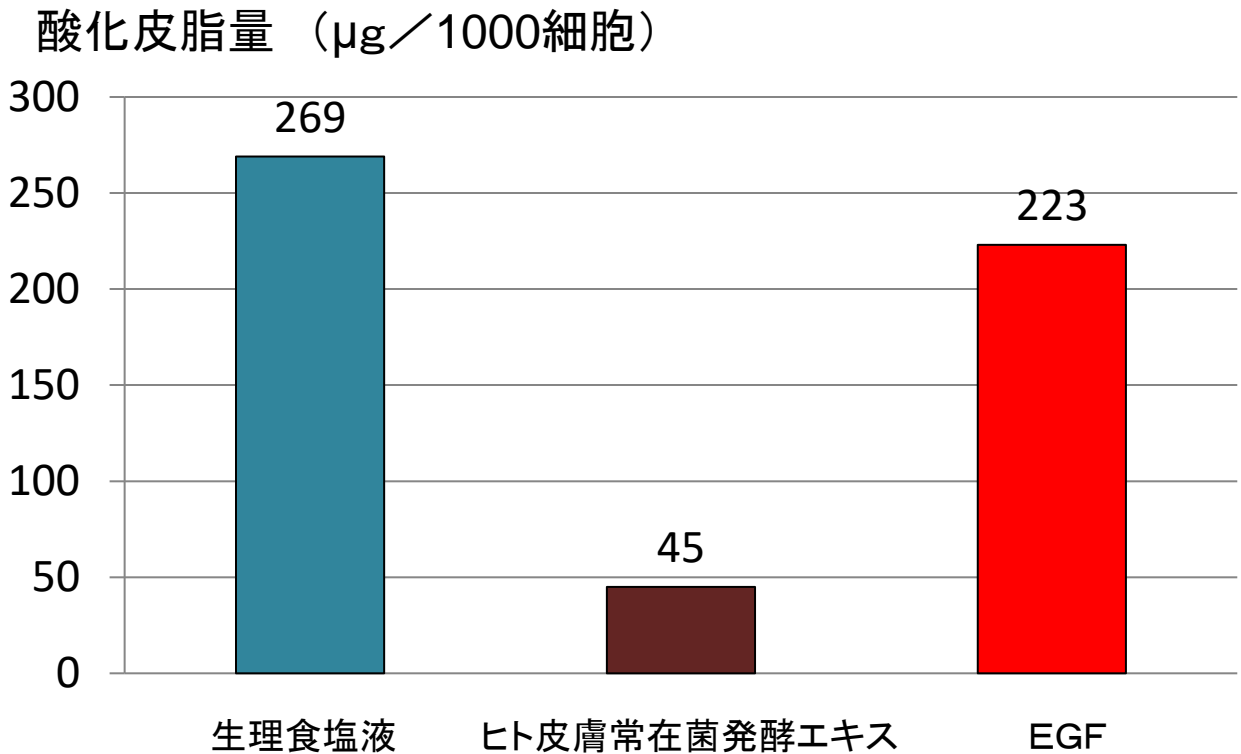
ヒト皮膚表皮細胞 / 皮脂分解作用



ヒト皮膚表皮細胞を培養し、紫外線を照射して障害させました。ここに皮膚常在菌発酵液を添加しました。さらに、培養して細胞に含まれる皮脂量をHPLC法により定量しました。その結果、皮膚常在菌発酵液の添加により皮脂量は減少しました。対照として用いたEGFよりも優れた作用を示しました。以上の結果、皮膚常在菌発酵液は皮膚表皮細胞の皮脂を減少させると結論されました。

ヒト皮膚常在菌発酵液

ヒト皮膚表皮細胞 / 皮脂酸化防止作用



ヒト皮膚表皮細胞を培養し、紫外線を照射して障害させました。ここに皮膚常在菌発酵液を添加しました。さらに、培養して細胞に含まれる酸化皮脂量をELISA法により定量しました。

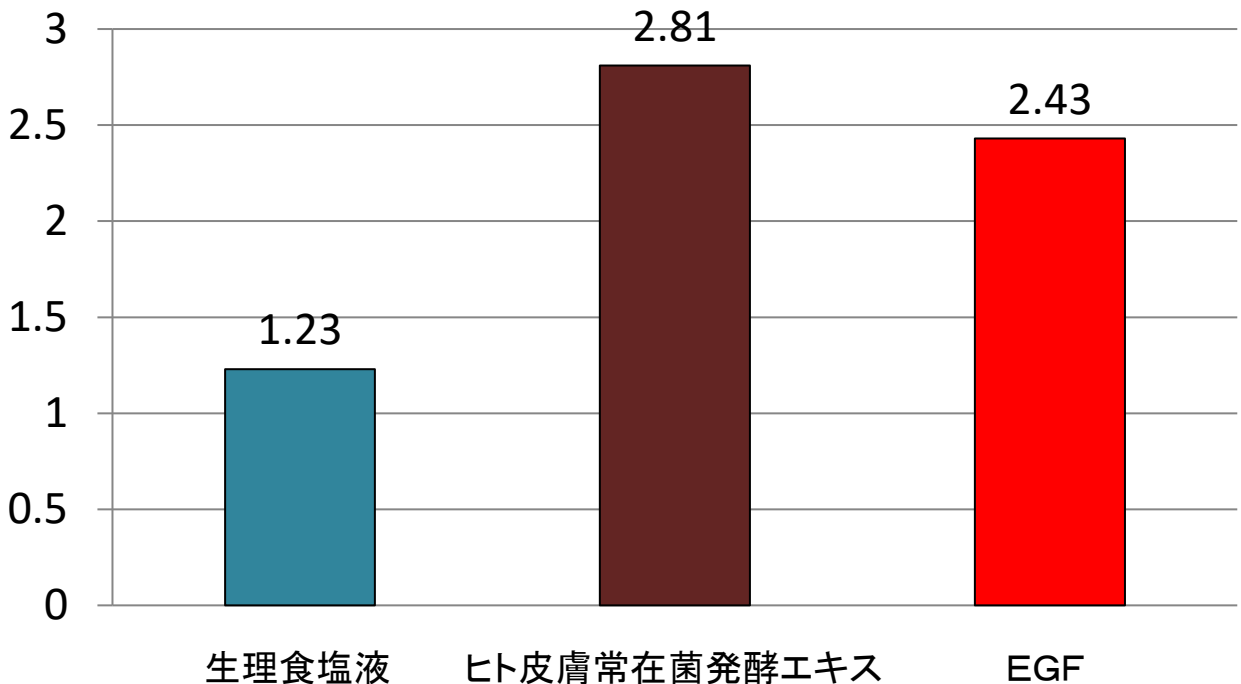
その結果、皮膚常在菌発酵液の添加により酸化皮脂量は減少しました。対照として用いたEGFよりも優れた作用を示しました。

以上の結果、皮膚常在菌発酵液は皮膚表皮細胞の皮脂の酸化を減少させると結論されました。

ヒト皮膚常在菌発酵液

ヒト皮膚表皮細胞 / 皮膚細胞増殖作用

皮膚表皮細胞数 (×1000細胞)

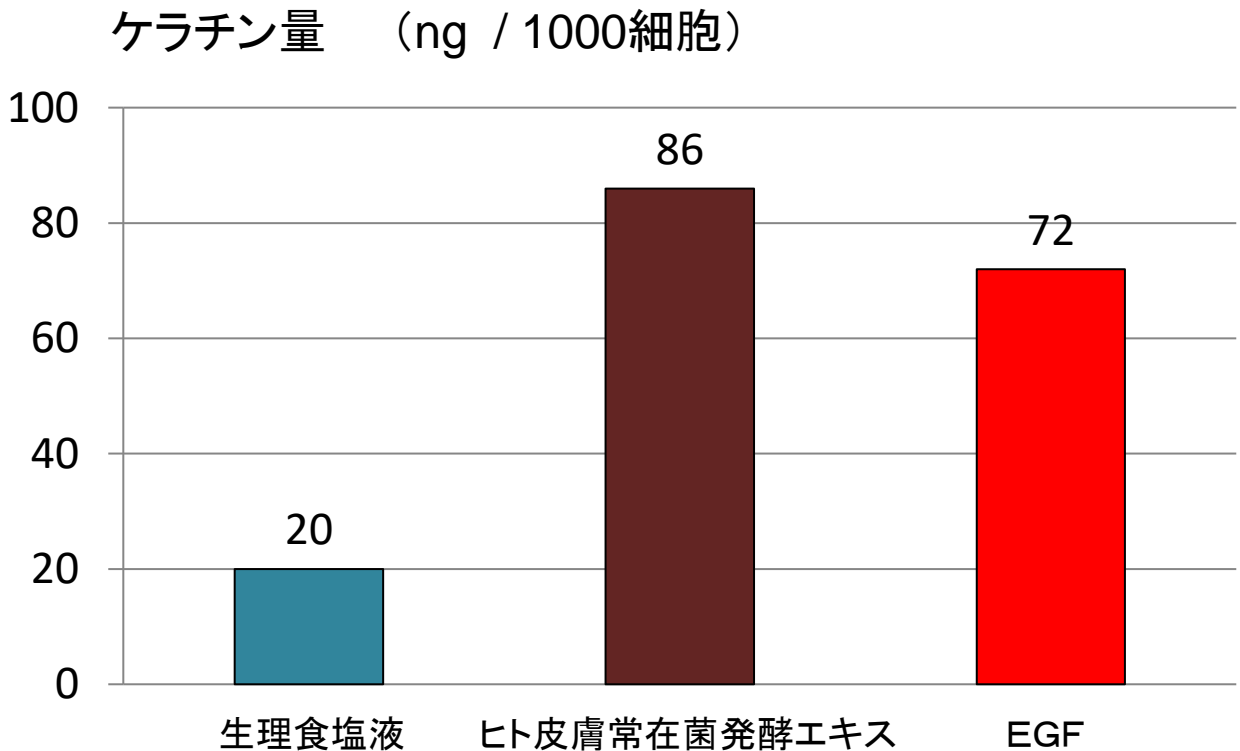


ヒト皮膚表皮細胞を培養し、紫外線を照射して障害させました。ここに皮膚常在菌発酵液を添加しました。さらに、培養して細胞数をトリパンブルー法により計数しました。その結果、皮膚常在菌発酵液の添加により皮膚表皮細胞数は増加しました。また、対照として用いたEGFよりも優れた作用を示しました。

以上の結果、皮膚常在菌発酵液は皮膚表皮細胞を増殖させることが判明しました。

ヒト皮膚常在菌発酵液

ヒト皮膚表皮細胞 / ケラチン量



ヒト皮膚表皮細胞を培養し、紫外線を照射しました。ここに皮膚常在菌発酵液を添加しました。さらに、培養して細胞懸濁液を調製して細胞内ケラチン量をELISA法により測定しました。その結果、皮膚常在菌発酵液はヒト型ケラチン量を増加させました。また、対照としたEGFよりも優れた作用を示しました。

以上の結果、皮膚常在菌発酵液はヒト型ケラチンを増加させることが判明しました。

製品規格書

製品名 : ヒト皮膚常在菌発酵エキス アサイヤシ発酵エキスタイプ

検査項目 :

1. 外観

検査項目	規格	測定方法
色	無色透明～薄黄色	目視
状態	液体	目視

2. 重金属及び微生物

検査項目	規格	測定方法
砒素	2ppm 以下	モリブデンブルー法
重金属	20ppm 以下	硫化ナトリウム比色法
一般細菌数 (生菌数)	100 以下 /g	標準寒天平板培養法
真菌数	陰性 0 /g	デキストリン培地培養法
大腸菌群数	陰性 0 /100g	MPN 算出法

3. ウイルス検査

検査項目	規格	測定方法
HIV、B 型肝炎ウイルス、 C 型肝炎ウイルス、ヘル ペスウイルス	陰性	ELISA 法

化粧品用途 有効濃度 5%

表示名称 スタフィロコッカスエピデルミジス培養液、(乳酸桿菌/サッカロミセス) /アサイヤシ果実エキス発酵液 (配合比率 95:5)

INCI Staphylococcus Epidermidis Ferment Filtrate、
Lactobacillus/Saccharomyces/Euterpe Oleracea Fruit Extract Ferment Filtrate

原材料 : ヒト皮膚常在菌、アサイヤシ発酵エキス含有無血清培養液
(血清、防腐剤、抗生物質及びビタミン、化学物質を含まない)

保管方法 : 冷暗所に保管する。

(開封後は密閉して冷蔵保存し、できるだけ早く使用ください。)

未開封時賞味期限 : 2年間。

日本製造

製造元 : 株式会社安理ジャパン

社内用教育資料^{以上}

安全データシート (SDS)

< 1. 製造者情報 >

製品名 : ヒト皮膚常在菌発酵エキス アサイヤシ発酵エキスタイプ
提供元 : 株式会社安理ジャパン

< 2. 物質の特定 >

単一製品・混合物の区別 : ヒト皮膚常在菌発酵エキス 液体
化学名 (一般名) : 特定できない
CAS RN : 特定できない
化審法番号 : なし
安衛法番号 : なし
国連番号 (番号 クラス) : 該当せず
EINECS : なし
TSCA : なし

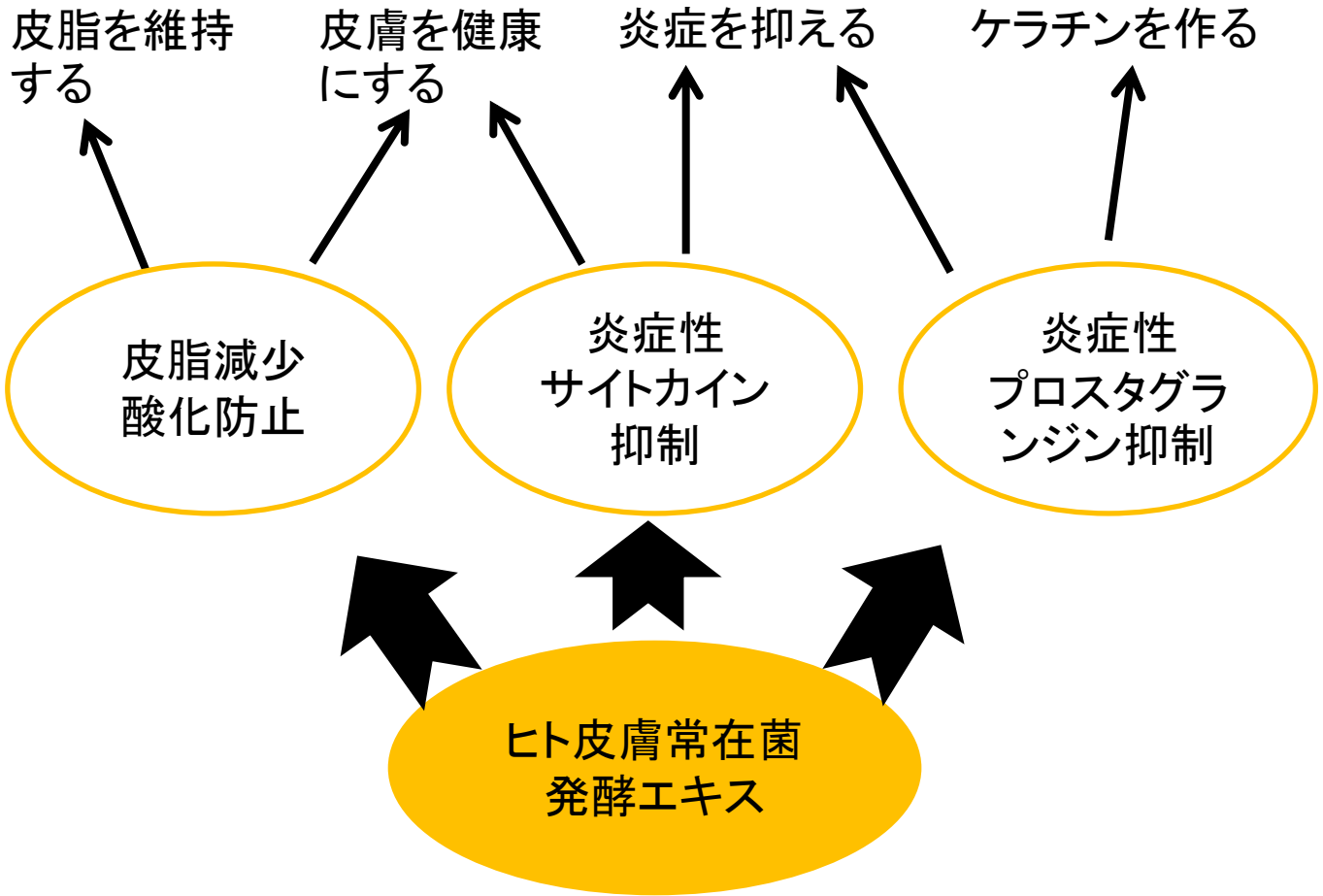
< 3. 危険有害性の分類 >

分類の名称 : 分類基準に該当しない
危険性 : 可能性がある。 熱、火花及び火災で着火することがある。
有害性 : 眼、呼吸器及び皮膚を刺激するおそれがある。
環境影響 : 記載すべき情報はない。

< 4. 応急措置 >

目に入った場合 : 直ちにまぶたを開いて、流水で15分間以上洗浄する。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
皮膚に付着した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
吸入した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
飲み込んだ場合 : 多量に飲み込んだ場合、下痢を起こす場合がある。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。

ヒト皮膚常在菌発酵エキス 肌に対する働き



ヒト皮膚常在菌が本来、持っている身体を守るという働きを発酵の技術により、高めました。

発酵により、有効成分が低分子化して利用されやすくなりました。

オリジナルの新規原料です。今までにはなかった体感を感じてください。